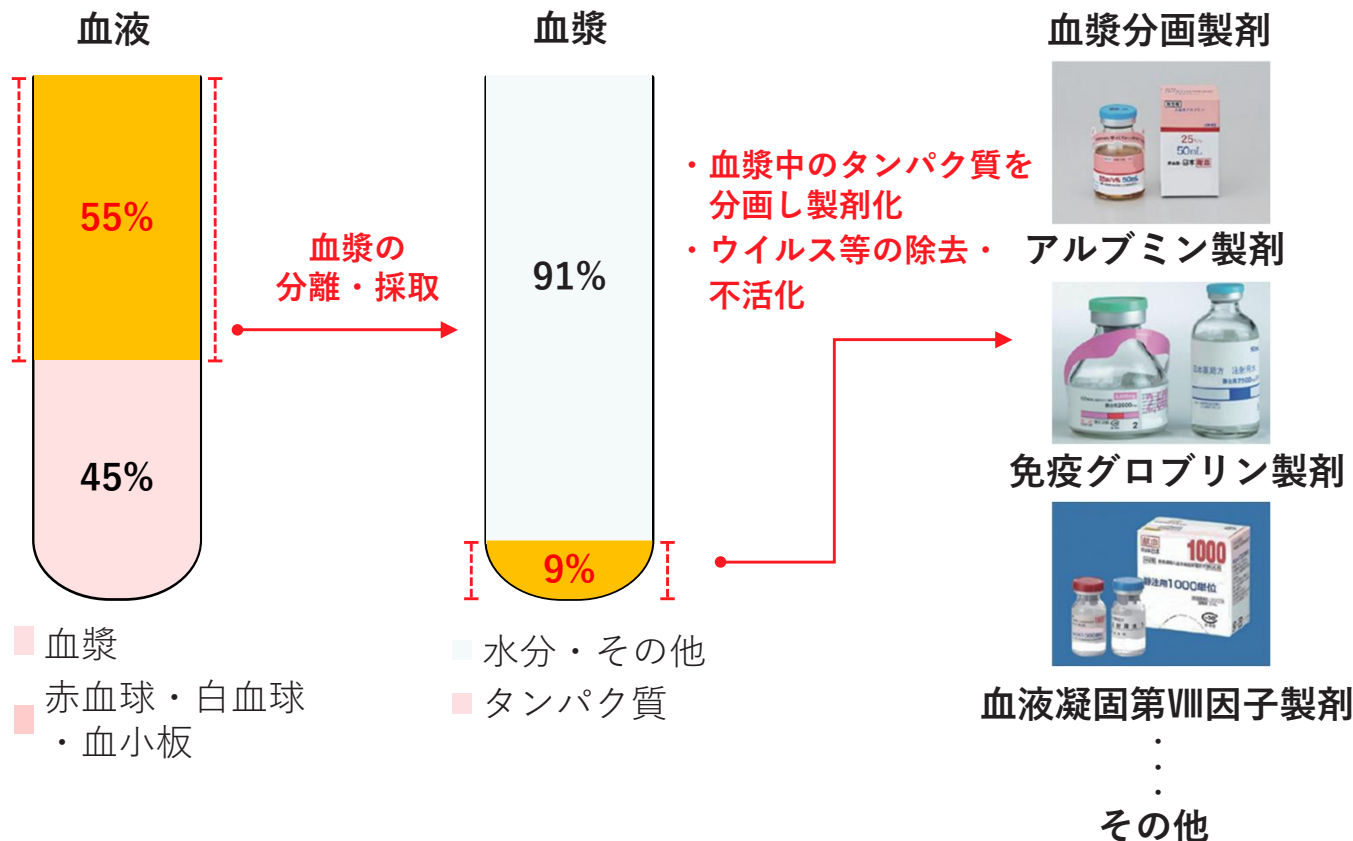


免疫グロブリン製剤とは

貴重な血漿分画製剤¹⁾

- 血漿分画製剤は、人の血液から分離された血漿を原料とする医薬品であり、血漿中のわずかに含まれるタンパク質を精製して製造されるたいへん貴重な医薬品です。



■ 免疫グロブリン製剤が用いられる疾患²⁾

疾患	患者数
重症感染症	27,000
原発性免疫不全症候群 (比較的頻度の高いX連鎖 無ガンマグロブリン血症の患者数)	300
慢性炎症性脱髄性多発神経炎/ 多巣性運動ニューロパチー	5,100
視神経脊髄炎	6,500
天疱瘡	3,200
類天疱瘡	7,000
川崎病 ³⁾	10,333 (2022年診断数)
免疫性血小板減少症 (毎年約3,000人が罹患)	20,000
皮膚筋炎/多発性筋炎	25,000
重症筋無力症	29,210

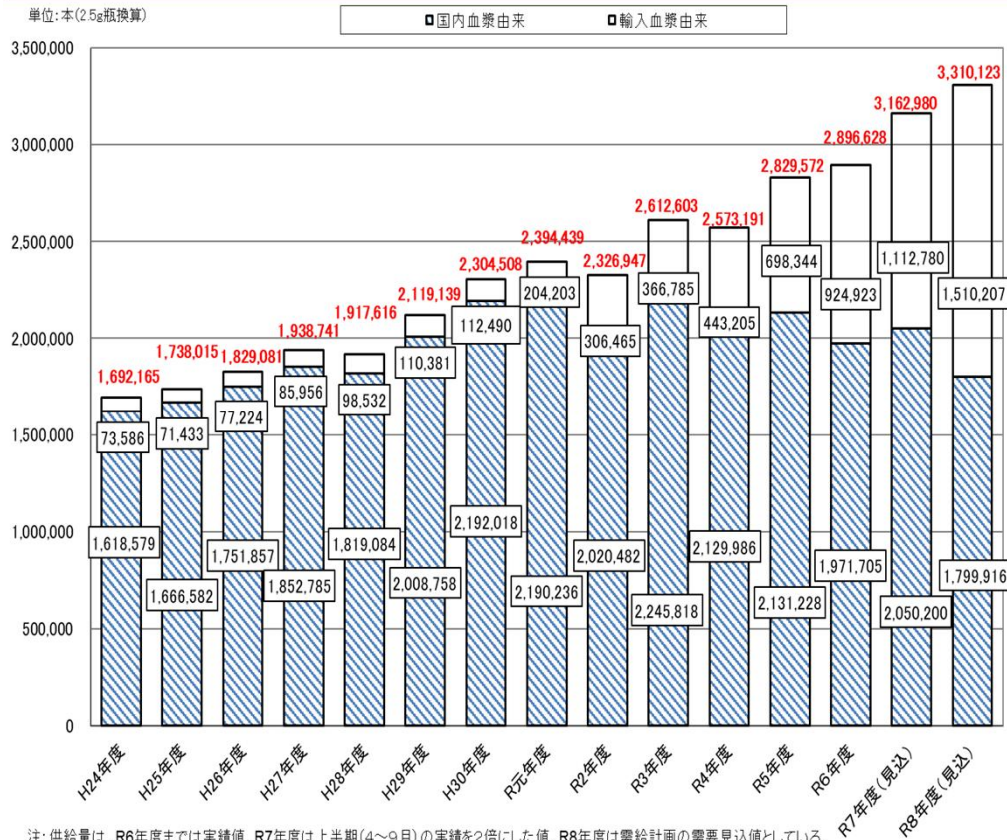
1) 厚生労働省 医薬局 血液対策課「令和7年度血液事業報告」(一部改変)

2) 難病情報センター 3) 日本血液製剤協会

免疫グロブリン製剤の需給状況について

- 医療現場からの要望を踏まえ、効能追加により多様な医療ニーズに貢献してきた結果、免疫グロブリン製剤の医療需要、供給量は増加傾向が続いている。
- 現在、国内血漿由来品は製造量が限界に達しており、需要に応えるため海外からの輸入量を増やすとともに、安定供給の確保に向けて国内事業者に対して血漿分画製剤安定供給・国内自給体制整備事業を実施している。

グロブリン製剤の供給量の推移



人免疫グロブリン製剤の自給率の推移(供給量ベース)

